

第 60 回 愛知県河川整備計画流域委員会 議事要旨

< 汐川流域③ >

日時：平成 29 年 8 月 17 日（木） 10 時 15 分～11 時 00 分

場所：愛知県庁 6 階正庁

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 委員長挨拶
4. 議題

汐川流域（第 3 回）

- 第 2 回流域委員会における意見と回答
- 河川整備計画（原案）の提示
- 第 2 回流域委員会からの変更点
- 第 2 回住民アンケート結果

5. 質疑

○アンケートについて

（委員質問）

アンケート調査結果について、自然が多いと洪水への不安が高い、という一般的な傾向と異なるっているが、その理由は何か。

（事務局回答）

汐川下流部は比較的川幅が広く、感潮区間であるため植生は少ないものの、魚類等の生息数は多く、比較的豊かな環境となっているためと考えられる。

○河川整備計画（原案）の表現について

（委員質問）

横断形状のイメージ図では、どのような植生を想定しているのか。

（事務局回答）

特別な希少種を移植するのではなく、この水系の在来種の再生を考えている。

（委員意見）

今後は、絶滅危惧種などへの配慮も必要。在来種に加えて、この水系で生息する貴重種にも配慮して欲しい。

（委員質問）

高潮対策に関して整備対象とする高さが明記されていない。どのように対応するか。

（事務局回答）

高潮については住民の関心も高く、数字の記載方法を検討する。

(委員質問)

超過洪水への対策は、水防活動への取り組みを先に記述し、なおかつ災害が起きた場合の対策の記述、という順番の方が良いのではないかと。

(事務局回答)

そのような順番に変えさせて頂く。

(委員意見)

河川法の改正で、河川環境は配慮事項から目的に変わった。今回の表現では、未だに配慮事項のように取られかねないので、注意が必要である。また、多自然川づくりに努めるとの表現も注意すべきである。

(事務局回答)

表現を変更するよう、検討する。

(委員質問)

河川整備計画には対策などを詳細に書くべきであるが、実際には橋梁の掛け替えなど、今後の20年、30年で検討を行って決定することもある。河川整備計画を作成する場合の基本的な考え方を教えて欲しい。

(事務局回答)

流下能力の有無や、橋桁の高さなどについては記載を検討する。また、今後30年間の方針などについても明確にしていく必要もあるので、今後検討していきたい。

○河川整備計画の具体的な内容について

(委員質問)

地元では、渥美線橋梁の部分の浸水対策に関心がある。対策の考え方を教えて欲しい。

(事務局回答)

現在、鉄道会社と対策の必要性については合意しており、暫定的な対策を予定している。

(委員質問)

河川整備計画を、住民の皆さんにどのような方法で周知するのか教えて欲しい。

(事務局回答)

愛知県の広報で周知すると共に、河川整備計画の本文は、愛知県河川課のホームページ上で公開する。

(委員質問)

河川環境の整備と保全における地域住民との連携は、どのような形を想定しているのか。

(事務局回答)

田原市や地元のボランティア団体、自治会の方々の意見を伺いながら進めていく。

○ハザードマップについて

(委員質問)

汐川は洪水ハザードマップが作成されていないが、今後の予定は。また、浸水被害の要因はほとんどが内水氾濫となっていることに対して、どのようなソフト支援を考えているのか。

(事務局回答)

汐川の浸水予想図を作成し、情報提供している。内水対策については、基本的には市町村の業務と考えている。

(委員質問)

立地適正化計画については、居住誘導区域を設定する時に、浸水区域が問題化するが、どのように考えれば良いか。また、住民にはL1とL2という用語の説明が必要である。

(事務局回答)

高潮浸水想定区域図などはL2、最大クラスの津波の想定であり、避難に資する情報である。汐川の地震対策を行わない旨の記述は、施設防護のL1レベルを対象としている。L1とL2の説明を記述する。

6. 閉会

[了]